

本日の車両一覧



■三輪トラック みずしま TM5F (新三菱重工業)
昭和 30(1955) 年式

個人蔵

みずしまTM5Fは、昭和30(1955)年に登場しました。第二次大戦後、軍需産業の中心だった三菱重工水島製作所が持てる技術の平和利用を模索する中で目を付けたのがオート三輪という自動車でした。軍用トラックで培った技術を生かして戦後まもなくオート三輪の開発を始めます。「みずしま」とは新しい時代に戦争の色を残さないよう「三菱」の名前を使わずに製作所の地名からとった名前だったのです。このTM5型は2人乗りで積載量は1t、セルモーターが搭載されクランクハンドルを使わずエンジン始動が出来るようになりました。基礎的な商品力の高さが光る、質の高い国産自動車です。

■三輪トラック SKC7(ダイハツ工業)
昭和 32(1957) 年式

ダイハツSKC7は、昭和30年代に国内の陸上輸送を中心として活躍した三輪トラックです。総排気量750ccのエンジンは、運転席から見える位置に搭載されています。エンジンの始動には、セルモーターが装備されていますが、非常用としてクランクハンドルによる始動もできるようになっています。また、ハンドルはオートバイのようなバーハンドルとなっています。ボディカラーは緑、乗車定員は2名で、昭和30年代を代表する国産自動車です。

個人蔵



■三輪トラック ホープスターSU(ホープ自動車)
昭和 33(1958) 年式

個人蔵

ホープ自動車ホープスターSUは、昭和33(1958)年に生産された車でバーハンドルの軽三輪です。この58年式のSUはヘッドライトが2灯あり、350ccの空冷2サイクルのエンジンは15馬力のパワーを生み出していました。大手の自動車メーカーではないのに、このような製品が生まれたのは、技術があれば既存メーカーのパーツを上手く組み合わせて設計することで消費者のニーズを受け止めることが出来たことを表しています。折しもオート三輪では大型化が進んでおり小型の分野では商品が乏しくなっていた所で、制定されたばかりの軽自動車の規格に合わせた軽オート三輪を実現しました。このことによって、このホープスターは軽三輪自動車というジャンルを築き上げた国産自動車といえます。



■三輪トラック K360(マツダ)
昭和 39(1964) 年式

マツダK360は、昭和34(1959)年に登場しました。有名な工業デザイナーが車体デザインを手がけ、実用性とナマズを連想させるユーモラスなデザインを兼ね備えた車として「けさぶろう」の愛称で親しまれました。当時のオート三輪は2サイクル単気筒エンジンが主流でしたが、K360は4サイクルV型2気筒エンジンを搭載する希少価値の高い車でした。当時の販売価格は23万円、ボディカラーは白と水色のツートン、乗車定員は2名で、昭和30年代から40年代を代表する国産自動車です。

個人蔵



■三輪トラック ミゼットMP5(ダイハツ工業)
昭和 39(1964) 年式

個人蔵

ダイハツミゼットは、昭和32(1957)年に誕生しました。軽免許で運転できることや維持費の安さ、好景気に後押しされ、昭和30～40年代、大衆車として愛された車です。昭和34(1959)年に生産が開始されたMPシリーズから2人乗りとなり、ハンドルもバーハンドルから丸型にかわりました。排気量305ccのエンジンは、運転席と助手席の間にコンパクトに搭載されています。ドアは前方が開閉するタイプで、ドアウインドウには三角窓・開閉が可能なアクリル板のウインドウが装備されています。愛嬌のある顔立ちが、見る人を笑顔にさせてくれる、昭和を代表する国産車です。

